

2023年7月31日(月) 12:00~14:00

松川町役場2階大会議室

令和5年度第2回 松川町農業振興会議

・ゆうきの里を育てよう連絡協議会 議事録

1. 開会・進行

田中課長

2. 挨拶

松下会長

3. 事業推進状況について 宮島説明

地域計画の策定について

農業法人の設立について(業務推進計画及び定款のパブコメ実施)

有機農業産地推進事業について

ローカル認証について

環境型バイオマス施設について

ライスセンターについて

5. 協議事項

松川町農業基本計画についてのワークショップ

A~Eの5つのグループに分かれ、ワークショップを実施。

3つの基本目標 1.活力ある持続可能な農業の推進、2 環境に配慮した農業の推進、3. 景観を大切にしたい農業の推進の3つの中から、グループごとに1つを選んで、話し合いを進めました。

A グループ 持続可能で活力ある農業

松川町は果物の生産の最適地だが、ブランドの発信力が弱い。ふるさと納税も隣町が9億円なのに2億円。異常気象という驚異でもチャンスにするには有機農業がいい。青森県の木村さんのような完全無農薬ではなく、リサイクルと減農薬。それは、消費者のニーズに答えることでもある。有機では生産性が下がるのだが、有機と健康志向が高まるチャンスを逃さないためには、安売りはしない。高単価で販売することだ。

そして、高齢化と労働者不足で遊休農地が増えることに対応するには、AIや外の人之力、新技術、新品種。フジができて産地になったので、こうしたものを絶え間なく探す。

B グループ 活力ある持続可能な農業の推進

リニアが通過する機会。そして、果樹の産地であるという条件を活かすには、南信という広域的な情報発信が必要である。肥料高騰のなかでも地域循環型の農業、肥料づくりをチャンスにする。野菜農家、果樹農家との連携を密にする。リニア開通を逃さないため、農業と商業との連携が大事である。また、世の中の食料不足に対して遊休農地の増加を招かないために最先端の技術や多種多様な農産物の生産をしていく。

C グループ 活力ある持続可能な農業の推進

みどりの食料システム戦略や有機給食の取り組みを生かして、「おいしい給食の町宣言」をする。若い人の移住を考える。世の中の労働力不足については、若手農業者が多い強みを活かして、町独自の研修を行い集落営農を活性化する。また、観光業の多様化のため、遊休地の増加で逃さないため、基盤整備で優良農地を確保する。

D グループ 活力ある持続可能な農業の推進

リニア開通、そして、果物が盛んなことを活かして、他地域と差別化をしていく。町をあげて減農薬や認証制度を作る。世の中の異常気象の中でも美味しい果物生産をチャンスにしていく。品種改良等をしていく。なお、いま、個々の農家が頑張っているが町民意識を統一する。また、IT化や情報化に対して「公報」がうまくないため、発信チャンネルを活かす。学級新聞やCMで露出していく。町民にまず知ってもらう。

E グループ 活力ある持続可能な農業の推進（地産地消の拡大と食育の推進）

地産地消と食育の推進をしてきたことで、いま、有機栽培、有機給食への関心が高まっていることから栽培者を増やす。

世の中の人で不足、果樹の町という強みを栽培にして、多くの人から関心をいただけたらいい。果樹が有名で名が通っているが担い手が不足している。そこで、工業団地の人と農家との相互関係を使ったらどうか。

また、世の中では認証制度そのものが認知不足である。松川町では利用者でコミュニケーションが不足しているので保育園のときから地道な食育を。

吉田太郎氏 講評

いろんな皆さんが熱心にお話をいただいて、今の全体の話を見ても、抱えてる脅威とか抱えてる問題ありますが、この松川町の強みというのは何なのかという話の中で、一番は果樹で、昔の人が取り組んできたこと。各グループの話はだいたい共通して感じがしました。

ただ、問題は有機の里宣言とか、美味しい給食とか、ここの中では結構盛り上がっていますが、一般の町民の方はほとんど知らない。それをどうやっていったらいいんだろうと言うのがテーマなのかなと。この問題と解決策は結構表裏一体。

例えば何回も例に出しますが、千葉県のいすみ市なんかは有機給食で有名になって、別にそれもあの有機給食で有名になりたいってことじゃなくて、こうのとりの生物が入ってくる

ような豊かな、住みよい街にしたいって言って始めたら、それが有機。給食になったら結果として今移住者も増えてきた形になっている。感じがします。町の人にどうやって知ってもらうか、企業との連携といった話もありましたが、足元をしっかりとすることが必要です。

36 ページの資料のところでは高機能をバイオ炭ですが、開発しているのは名古屋大学なんですね。東京の卸売市場の会社が着目しました。どうやって消費者の人に関心を持っているか悩んだ際、企業は新人研修を行っている、その研修の際にバイオ炭の散布を手伝った。農業が体験だ、安く買ってはいけない、環境にいいことをやっている意識が高まった。そんな事例もあります。ありがとうございました。

別紙まとめ

次回会議 ゆうきの里を育てよう連絡協議会 9月14日 16:00～
農業振興会議 9月14日 19:00～ 予定